

視機能に障害のある患者を迎えるための眼科専門病院の取り組み 医療法人社団済安堂 井上眼科病院

視機能に障害のある患者を迎えるための ファシリティ戦略

外来分離統合による利便性向上と組織改革・経営効率化

患者中心の環境実現へのスパイラルアップ

アクセスアビリティを高めるための街づくりへの取り組み

FM実践体制

第1段階（計画・実施段階）
：外来分離統合プロジェクト

第2段階（整備後の検証と改善）
：環境改善委員会の設置

第3段階（維持運営段階）
：環境改善委員会 * 課題把握と実施
+ お茶の水UD研究会 * 調査研究・企画

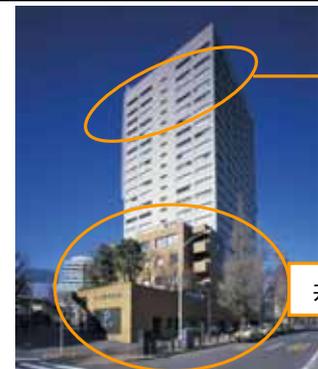
当時の 井上眼科病院

1981年に建築された井上眼科病院は、患者数増加で混雑し、受付から検査、診療への移動には、スタッフのマンツーマンによる誘導が必要だった。



外来分離統合による 新クリニックの 設立

井上眼科病院の外来部門を分離し、周辺の3つの専門外来を統合して隣接する高層ビル19・20階にお茶の水・井上眼科クリニックを設置。



お茶の水・
井上眼科
クリニック

井上眼科病院

利用者調査を導入したクリニックの計画

分かりやすいサイン計画を実施するため、サインの利用者調査を計4回実施
調査内容は、文字フォント、誘導サイン、フロアマップ、トイレ男女ピクトグラム、多機能トイレピクトグラム

第1回サインの見やすさ調査(ロービジョン者)

対象者：見やすさとデザインを考える会メンバー5名

第2回サインの見やすさ調査(職員 = 健常者)

対象者：井上眼科病院職員 220名

第3回サインの見やすさ調査(井上眼科病院の来院患者)

対象者：井上眼科病院関連クリニックの利用者66名

第4回サインの見やすさ調査(井上眼科病院来院患者)

対象者：井上眼科病院関連クリニックの利用者 20名緑内障、白内障患者及び高齢者



竣工後の分かりやすさの検証



新クリニック完成後、本当の使い勝手を検証するための実証調査を実施した

【対象】井上眼科病院関連クリニックの利用者 19名

【調査】来院して受付から検査・診察スペースを経て、会計に戻って帰るといっ一連の流れの誘導を検証

利用者調査を導入した病院改装計画



トイレの使いやすさ調査

対象者：入院患者148名

調査内容：トイレの設備環境に関してモックアップを設置してのアンケート調査

病室の使いやすさに関する調査

対象者：入院患者106名

調査内容：病室環境に関するアンケート調査

* 写真は衛生機器メーカーでの病室内トイレの機器配置シミュレーション

視機能に障害のある患者を迎えるための眼科専門病院の取り組み 医療法人社団済安堂 井上眼科病院

お茶の水・井上眼科クリニック/井上眼科病院の施設計画

2006年1月に開院したお茶の水・井上眼科クリニック、2008年2月に改装が完了した井上眼科病院は、共に全面的にユニバーサルデザインに配慮した施設である。デザインの決定においては、実際の患者さん(延べ350名。高齢者・かつ白内障・緑内障患者が中心。)が参加した精度の高い調査を実施し、検証を行った。その結果、分かり易いサイン、素材の差で誘導する床、弱視の方でも通路を認識できる照明計画、安全で使いやすいトイレ、快適な病室環境等を実現している。

【お茶の水・井上眼科クリニック】

特徴

視機能に障害のある患者が目的の場所に、安全に、出来るだけ自分で移動できることを目指した。

平面計画

センターコアを時計回りに移動するメイン通路を設定。受付会計、検査、診察の主要スペースが診療の流れに沿って配置されている。



19階平面図



下がり天井とライン照明、床のデザインによる明やかなメイン通路



間接照明が受付を協調



いつも一定の照度を保つ待合



調査による分かりやすいサイン計画

【井上眼科病院】

特徴

手術・入院機能に特化した施設改装を実施。「生活」をテーマに眼科病棟のユニバーサルデザイン化を行った。

平面計画

ニコライ堂に隣接する西側に個室とデイルームを設置。トイレ(水色部分)の配置は、個室は室内に、多床室は病室近くに共用トイレを設置。



3階 (病棟フロア)



造作和紙の光壁による印象的なエントランス



全てのベッドに窓がある多床室(3床室)



ニコライ堂を臨む個室



視認性の高い個室トイレ



配置図あるトイレのサイン

視機能に障害のある患者を迎えるための眼科専門病院の取り組み 医療法人社団済安堂 井上眼科病院

施設の更なる改善、待ち時間短縮への取り組み

毎月1回院内の環境改善委員会で、患者さんにとって不便が無い話し合いを行っている。

待ち時間短縮に向けて、継続的な調査と改善を実施し、2年間で10分の時間短縮を実現。

半年に1度患者満足度調査を実施し、接遇や環境の改善に取り組んでいる。

【サインの見直し】



利用者の増大で、サインが人の陰に隠れて見づらくなってしまった。サインの位置を高くし、同時に情報の整理を行った。

アクセスしやすいまちづくりへの取り組み

(神田駿河台地区まちづくり協議会への様々な提案実施)

神田駿河台地区まちづくり協議会では、JR御茶ノ水駅のバリアフリー化や駅周辺の環境整備について協議を進めており、協議会に対して医療者の立場からユニバーサルデザインの重要性を訴えている。

屋外における光のユニバーサルデザイン

患者さんへのヒアリングと共に、御茶ノ水境界の夜間の光環境を調査し、視覚障害者の歩行支援となる光環境の提案を行った。



駅からクリニックへの移動に関する調査

JR御茶ノ水駅及び東京メトロ新御茶ノ水駅からクリニックへの移動について、どのような不具合があるか、アンケートによる患者調査を実施し、まちに潜む問題点を示し、課題解決の提案を行った。



お茶の水UD研究会の活動

月1回、医療者やデザイナー、技術者、UD専門家等が集い、先進事例の講演やワークショップ、調査等を行っている。研究会での成果は各種学会で発表されている。



専門家による先進事例の勉強会

視覚障害、色覚障害や聴覚障害に対する環境整備の課題、空港のUDや行政施設のUD、水周りのUDの取り組み、光、音、色彩についてのUD等、各分野の専門家による勉強会を実施。

調査研究・ワークショップ

UD研究会での調査研究は、眼科系学会や福祉のまちづくり学会、建築系学会等で積極的に発表されている。

<色覚異常シュミレーションゴーグルによる色彩チェック>



色弱模擬フィルタを使用しクリニック内の案内表示、誘導サイン、診察室や待合室等の中で色弱者にとって見分けにくい配色の検出を試みた。

<床の素材差による誘導の有効性に関する調査>

クリニックで導入した床デザインの誘導効果を確認する調査を実施。点字ブロックの代わりに床の素材差でも誘導できることを確認。



<照明と床の色でエレベーターホールでの迷いを解消>

院内専用エレベーターが見つげづらく、多くの患者さんが迷っていることが、調査で判明。改善に着手。

床の色を変え、ライン照明を設置した。改善後の調査で、分かりやすさの大幅な向上を確認した。



・140名の聞き取り調査



・329名の聞き取り調査

